

平成 31 年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 中学校(英語)における because 問題

甲斐 順

1. はじめに

「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」(文部科学省・国立教育政策研究所, 2019)ことを目的として、小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年を対象に行われてきた全国学力・学習状況調査で、平成 31 年(2019 年)度 4 月、中学校(英語)が初めて実施された。本稿では、学習指導要領の「書くこと」の領域に係る出題から従属接続詞 because の問題について取り上げたい。

2. because 問題その 1

中学校学習指導要領の「書くこと」の領域に係る 9(1)②は、次のような設問であった。

()内に入れるのに最も適切な語を、それぞれ 1 から 4 までの中から 1 つ選びなさい。

I saw a friend of mine at the station, () I had no time to talk to him.

1 if 2 or 3 but 4 because

1 の反応率が 2.8%，2 の反応率が 2.4%，3 の反応率(正答率)が 59.2%，4 の反応率が 35.1%，無回答が 0.5%であった。but の正答率が意外に低く、because を選んだ率が 35.1%で、論旨の把握の不十分さを示している(渡部, 2019)。

青柳(2019)は、誤答である because について「友人」と「彼」が別人と考え、「駅で友人に会った

ので、(別の)彼に話せなかった」や「時間がとれないから、(短時間で)駅で友人に会った」という 2 通りの解釈を示した上で、誤答の中に豊かな発想の可能性があると述べている。

この見方に対して鳥飼(2019)は、日本語の発想で考えるのではなく、英文であることを踏まえ分析する必要性を唱える。青柳(2019)の「友人」と「彼」が「別の彼」である 1 つ目の解釈について、代名詞 him が突然別の「彼」を指すのではなく、直前の a friend of mine を受けて、「彼」を特定していると指摘する。また、2 つ目の解釈については、saw の原形の see には多様な意味があることを踏まえた上で、「話す時間がまるでないとわかっていて駅で会うというのは、論理が矛盾していて不自然」(p. 12)であると言う。その上で、この問題に困った生徒に対して、because はつながりが悪く、but だと筋が通るのかを、代名詞の使い方を含め、丁寧に説明したいと主張する。

本校に勤務している ALT(オーストラリア出身)にこの問題を提示したところ、but を躊躇なく選択した。また、「友人と話す時間が(これまで)なかったから、駅で会った」のつもりで、I had no time の部分を I had had no time に変えた英文を提示したところ、saw は bumped into の意味で、because では bizarre であると即答した。

ところで、この英文に出てくる see, talk (to), but, because は中学校英語教科書でどう扱われているだろうか。現在(2020 年度)中学生が使用している 6 社の英語教科書の巻末の語彙リストに当たり、表 1 のようにまとめてみた。but については、すべての教科書で「しかし」の訳語が載せられているが、because については、「なぜなら」を括弧で示している教科書もあれば、「～なので」「～だから」など訳語にばらつきが見られる。see については、「会う」「見る」「(医者に)診てもらう」など複数の訳語

表1 中学校英語教科書巻末語彙リストにおける語彙の扱い

教科書	because	but	see	talk	talk to ~
CO	～だから, ～という理由で	しかし	①理解する, わかる ②～に会う ③(見ようとして)～を見る, (名所など)を見物する, (映画などを)見る ④～が見える, ～が目に入る ⑤(医者などに)診てもらう	話す	記載なし
NC	(なぜなら)(～が) ～だから, (～が)～なので	①しかし, だが ②(not ~ but ... で)～でなくて…	①見る, 見える; 見物する ②会う, たずねて行く ③わかる, 理解する	話す, しゃべる, 話をする	～と話す
NH	(なぜなら)…だから	①しかし ②→ only	①…を見る, 見物する ②…がわかる, 理解する ③…が見える, 目に入る ④ See you. またね. ⑤…に会う ⑥→ let's	話す, しゃべる	記載なし
OW	なぜなら～, ～なので	しかし, ところが	①～を見る, ～が見える ②～に会う ③(～を)理解する, わかる ④(医者に)診てもらう	話す, しゃべる	記載なし
SS	なぜなら～だから	しかし	見る, 見える, わかる, 会う	話す	記載なし
TE	～なので	しかし, でも	①(人に)会う ②わかる, 理解する ③(～を)見る, ～が見える ④(医者に)みてもらう	話す	記載なし

CO=COLUMBUS 21, NC=NEW CROWN, NH=NEW HORIZON, OW=ONE WORLD,
SS=SUNSHINE, TE=TOTAL ENGLISH

を提示していることがわかる。talk については、すべての教科書で「話す」の訳語が載せられている。talk to については NEW CROWN だけが「～と話をする」と記載しているが、他の教科書の巻末の語彙リストでは扱われていない。しかし、教科書の初出箇所を見ると、“Talk to you later” (CO 2; 書名の後の数字は学年を表す、以下同様、p. 22), “She was smiling and talking to it.” (NC 2, p. 75), “Talk to them.” (NH 2, p. 60), “Kenta: Can we talk to Tao now?” (OW 2, p. 19), “He tries to talk to foreigners in English.” (SS 2, p. 72), “Talk to you later.” (TE 3, p. 36)とそれぞれ記載

されている。TEの教科書を除き、中学2年生までこの表現を学習していることがわかる。全国学力・学習状況調査を受検した中学校3年生の多くが talk to を知っていた可能性がある。それではなぜ because を選んだのだろうか。調査に参加した中学生にぜひ聞いてみたいところである。

3. because 問題その2

中学校学習指導要領の「書くこと」の領域に係る10は、次のような設問であった。

海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすい

タウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。(案内図省略)

正答の条件として、「①どちらの案がよいか、1つ選んで意見を書いている。」「②選んだ理由等について、2つの案に触れながら書いている。」「③25語以上の英語で書いている。」が挙げられている。解答類型1は、すべての条件を満たし、正確な英語で解答しているもので、反応率は0.1%であった。正答に分類される解答類型2は、条件①、②、③を満たし、おおむね正確な英語で解答しているもので、反応率は0.5%であった。同じく正答に分類される解答類型3は、条件①、②、③を満たして解答しているが、2つの案の触れ方について具体性に欠けるもので、反応率は1.3%であった。解答類型1から解答類型3を合計しても正答率は1.9%に過ぎず、理由を挙げながら意見を書くことに大いに課題があることがわかる。

ところで、解答類型4～8は誤りの具体例が12例示されている。例えば、解答類型4(条件①、②、③を満たして解答しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの)の誤答の一例は次のように記されている。

・I'm A better than B. Because I think A picture can many people anderstant. But B picture looks libraries. And A picture have teacher and students study there. So A picture is best. [33 words] (原文のまま)
(文部科学省・国立教育政策研究所, 2019, p. 64)

同様に解答類型5(条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの)の誤りでは次の一例が示されている。

・I choose B. Because it looks like a school building. And the children go to there. So, I think B is looks like a school. So I choose B. [29 words] (同上, p. 65)

ここで問題にしたいのは、大文字で始まるbecauseである。解答類型6を除き、それぞれ誤答例に、主節を持たない断片文としてのbecause節(従属節)が合計で6例も示されていることである。becauseの断片文について、『ジーニアス英和辞典』第5版では、次のように記されている。

[Because で文を始めない] よく日本人は*I'm sorry I couldn't be there. Because I was busy.のように主節とbecause節を別々に書くが、これは誤り。I'm sorry I couldn't be there, because I was busy.のようにするのが正しい。ただし、why疑問文に答える場合は別。(p.187)
(強調は原文のまま)

日本人がbecause節を断片文として使用することは知られている(Barker, 2010; Larsen-Freeman & Celce-Murcia, 2015)。その原因として、①母語である日本語の影響(甲斐, 2018, 2019; 小林, 2009; 白畑, 2015)、②会話を中心として構成される中学校英語教科書の影響(甲斐, 2018, 2019; 小林, 2009; 白畑, 2015)、③学習者が「話し言葉」と「書き言葉」という文体の使い分けができていないため(小林, 2009)、④中学校教員の指導による影響(甲斐, 2019)が指摘されている。今回の全国学力・学習調査はbecause節の断片文使用を6例も示しており、日本人英語学習者の特徴がよく表れていると言えるだろう。

高校生に理由を述べる英文を書かせると、because節を断片文として平気で使用している英文を多数目にする。Why～?という質問文にBecause～.の断片文で応答する練習の定着も大事だが、whenやifなどと同じように本来は主節を伴う英文の中で用いられる表現であることを学習者に早い段階から指導することも必要であろう。

4. おわりに

文部科学省(2008)は「複文は、従属節を含む文であるが、構造が単文や重文に比べて複雑であり、意味をとらえにくいことが多いため、学習段階に応じた適切な指導が必要である」(p. 35)と述べている。文部科学省(2018)は、中学校の新学習指導要領で接続詞を新設の文法事項として扱うことを明記した。

「発信力を付ける際には1文レベルの英語を作る力だけでは不十分で、文と文をつなげる際の接続詞の用法が十分指導されなければならない」(p. 45)と述べた上で、話し言葉で顕著に接続詞が用いられているとも付け加えている。

今回の全国学力・学習状況調査では、図らずも接続詞、とりわけ *because* に弱点があることが露呈した。

because 節の断片文使用は、Why ～? に対する質問文の応答や躊躇する際に見られる(Swan, 2016)、書き言葉で表現する際、主節を明示する必要があり、学習者に正しい理解を促す指導が不可欠である。英語の全国学力・学習状況調査は3年に1度程度行われることになっている。次回の調査で *because* 問題はどこまで解決されるか期待したい。

引用文献

- 青柳和典(2019). 「『誤答』にこそ発想力の芽感じて」, 朝日新聞 2019年8月22日朝刊, 10.
- 甲斐順(2018). 「日本人高校生による *because* 節の断片文としての使用に関する事例研究」, JACET 関東支部紀要, 5, 34-44.
- 甲斐順(2019). 「日本の高校生英語学習者による *because* 節の断片文としての使用に関する調査結果：包括的な訂正フィードバックを通じて」, JAAL in JACET Proceedings, 1, 76-83.
- 小林雄一郎(2009). 「日本人英語学習者の英作文における *because* の誤用分析」, 関東甲信越英語教育学会研究紀要, 23, 11-21.
- 白畑知彦(2015). 「英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から」, 東京：大修館書店.
- 鳥飼玖美子(2019). 「接続詞の論理的役割 理解深めて」, 朝日新聞 2019年10月2日朝刊, 12.
- 南出康世(編集主幹)(2014). 『ジーニアス英和辞典 第5版』, 東京：大修館書店.
- 文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説 外国語編』東京：開隆堂出版.
- 文部科学省(2018). 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』, 東京：開隆堂出版.
- 文部科学省・国立教育政策研究所(2019). 『平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 報告書一児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じ

た学習指導の改善・充実に向けて：中学校 英語」. 渡部良典(2019). 「平成 31(令和元)年度 全国学力・学習状況調査」, 『英語教育』第68巻第8号, 87-90.

Barker, D. (2010). *An A-Z of Common English Errors for Japanese Learners (English Edition)*. Nagoya, Japan: BTB Press.

Larsen-Freeman, D., & Celce-Murcia, M. (2015). *The Grammar Book: Form, Meaning, and Use for English Language Teachers* (3rd ed.). Boston, MA: Heinle and Heinle.

Swan, M. (2016). *Practical English Usage* (4th ed.). Oxford University Press.

(神奈川県立柏陽高等学校 総括教諭)